


 島山俊三

内野森一

吉野宏

巨大企業TDKの礎を築いた 磁気テープ

TDKはカセットテープ世代の我々にとって非常に馴染みのある企業だが、磁気テープ事業からの撤退したあととはコンシューマ向けの製品をほとんど作っておらず、馴染みのあるダイヤモンドマークもあまり一般の目に触れることはなくなってしまった。だが本業の電子部品専門メーカーに戻ったいま、じつは業績は絶好調。近年では年商約1兆8000億円、従業員数10万人（そのうち約9割が海外）という超巨大企業となっている。

いま「本業」と書いたが、1935年の創業当時はフェライトを使った部品メーカーだったTDKが、コンシューマ向けビジネスであるカセットテープで、スコッチやBASF、ソニーといった世界の名だたるライバルに打ち勝って世界一のブランドとなった事実がある。なぜ一部品メーカーに過ぎなかったTDKがカセットテープ市場で世界一となることができたのか。その秘密はもちろん優れた技術力に加え「独自のマーケティング戦略にあった」と島山俊三氏は振り返る。

島山氏はもともと社内報を作る部署にいたが、N響の定期会員であるほど

のクラシックマニアであり、オーディオの造詣も深いことから1968年磁気テープ事業部に引き抜かれた人物。

1968年といえばTDKが世界初の音楽専用カセット『SD』を発売した年だった。またティアックがこのSDを基準テープとした世界初の音楽用カセットデッキA-20を開発。このデッキとともにSDを当世人気のあったオーディオ評論家に売り込んでいったのが島山氏だった。

こうしてカセットテープの時代が幕を上げた。

だがこの頃、TDK社内では「カセットテープの需要が伸びそうだが、早々に（社内の）人材が足りなくなる」という危機感が募っていたという。そこで人材募集のために「TDKは実力主義を廃止しました」という人材募集広告を掲出。「『実力主義を廃止』、これは実力、実力と肩をいからせずに伸び伸びとやってほしいということで、この広告に魅力を感じる人材を広く募った」のだという。この戦略は成功し、1500人の募集に対し様々な業界から1417人も応募があった。

後にTDKデザインコア（現TDKデザイン）の中核を担うことになる内野森一氏も当時は他社にいて、そのような広告を掲出するTDKはすごいと



世界の仲間が使っているカセットテープ

世界の仲間が注目するカセットテープ

透明カセットが加わりました。500円!!

(スモークブラックC-60F紙ケース入り)

1968年の広告。TDKタイムズという社内報に掲載されたもの。まだカセットテープは音楽用ではなくメモ用の記録媒体にすぎなかった。この後、SDが発売され、カセットテープは新時代に突入する。



内野森一

TDKデザインコアにて記録メディアの宣伝コンセプトワークおよびコピーライトを担当。数々の特徴的にコマース、広告ビジュアルを企画・制作。1972年から2006年まで在職。

思ったという。

TDKデザインコアの役割

一般的に企業のPRは社内の宣伝部門と広告代理店が組んで行うことが多い。社内と広告代理店のどちらが主導して企画するかは、案件毎に違ったり様々な力関係で変わっているが、TDKくらいの企業規模の場合は自社で全てのPR活動を行う、ということはあるまいないだろう。

TDKも社内には宣伝部門が存在していたのだが、実際に宣伝の企画や広告のグラフィックを制作するのはTDKデザインコアという別会社だった。

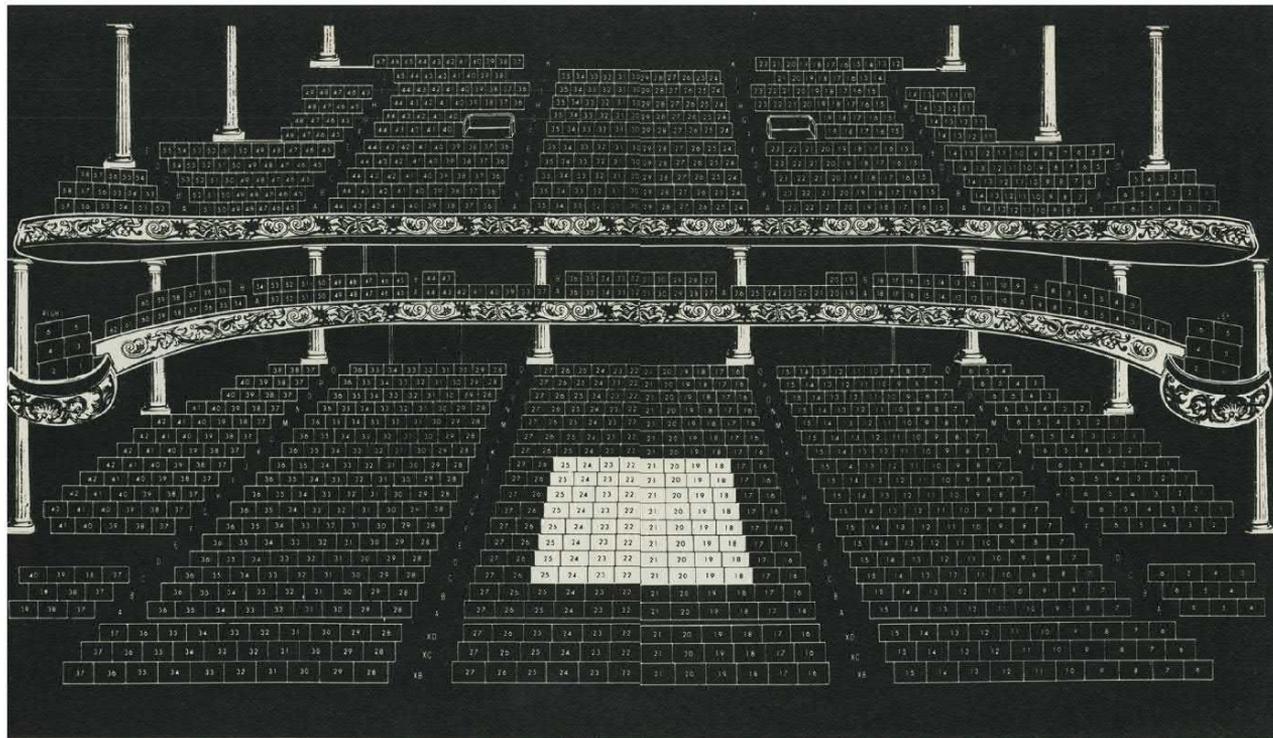
「いまでこそコンシューマビジネスを行う会社がC（コーポレート・アイデンティティ）を取り入れるのは当たり前になっていますが、日本で最初にCを取り入れたのはTDKだと思っています」と内野氏。そもそもTDKデザインコアはTDKトータルデザイン

ンを行う会社として設立されたという。だが内野氏が入社したころ、商品企画課が出来、それに伴いTDKデザインコアの役割は増えていた。

内野氏は「TDKは実力主義を廃止しました」という広告を見て、「このような会社で働ければと思って」転職を決意したそうだ。当初コピーライターのつもりで入社したのだが「実際は何でもやらされました」と振り返る。広告のコピーライト、文章はもちろん、

プレス向けの技術資料から社内、取引先向けの資料まで、社内で作られるあらゆる文書作成が回ってきたという。はては「たとえば『AD』という商品名にしたのでフルスペルを考えてくれ」「Acoustic Dynamicでどう」という具合でコピーライ

トの域を完全に超えている。だが外部の広告代理店と違い、より開発に近い立場で企画できるため、その製品に もっとも適した広告・宣伝活動が行え



音域2倍。特別席に移ったほど違います

SDをもうお聞きになりましたか
オープンテープに匹敵する驚異の
超音響カセットテープSD。音楽
の未来を導く、画期的なテープの
誕生です。音楽マニアのあなたに
世界に先がけてTDKが贈ります

音域も 音の深さも、いままで何倍
音域は、30~20,000Hz以上。広い
ダイナミックレンジ、すぐれたSN
比による、歪みのない明確な音質
迫力、深さ、広がりを増し、オーケ
ストラ演奏さえ忠実に再生します

TDKカセットテープ



SD
SUPER DYNAMIC TAPE
このカセットテープSDはC-RES 89円
※税別 各社各店にて販売中



1968年、ついに世界初の音楽専用カセット、SDが発売される。音質の良さをコンサートホールのS席に例えるという斬新なアイデア。白黒だがインパクト大。

「上司でアートディレクターの和泉賢二（1967年入社）がカセット広告制作の中心にいて、私はコピーライターとして参加、本当に何でもやりました」と内野氏は振り返る。TDKの宣伝にPR企画をプレゼンして採用されたらゼロから制作を行う。「こんな

るといふメリットは大きかった。TDKデザインコアは社名からもわかるようにTDKの宣伝活動を担う完全子会社で、ハウスエージェンシーといった位置づけだった。まだ部品メーカーとしての域を出ていないTDKがハウスエージェンシーをいち早く設立したのは、現在の目から見ると先見の明があると思う。

マーケティング・マトリックスというものがあるそうだ。「たとえばメタルを使うお客さんはどういうところか。ナカミチを使う人に向けるなら一般誌ではなく専門誌、など」と畠山氏。先に述べたとおり内野氏はプレス向けの技術資料や、商品のネーミングに関わったりパッケージコピーを書いたり

商品を知り尽くしているからこそ

広告があったらいいよね、と提案して採用されてから、どうやって作ろうかなんて頭を抱える……なんてこともありませんでした。だがほとんど内部の立場だけにそのPR計画は的確で綿密だったと、第三者の目から見ても感じる。



1969年の広告。30~20kHzまで記録可能な広音域をアピール。SDなら1万Hz以上の秋の虫の声を聴き分けられる、という内容。確かにこの広告が目止まる。



1970年の広告。もともとオープン用として開発されたSDが、オープンだとハイ上がりすぎるとしてカセットで発売された。が、あまりに人気に結局オープンとしても販売。



ストライプパターンになる前のSDシリーズ、1971年の広告。60分、90分に加え、初の音楽用120分テープの登場だ。エアチェック派のためのカセットだ。

ストライプパターンで他社とデザインでも差別化。D、SDに加え、初のクロムカセットKRもラインナップ。1972年の広告だ。ちなみにKRは「KROM」の略。

また、TDKデザインコアは「けっこう自由にさせてもらえたんです」という。それはTDKデザインコアの中にある内野氏が自由に、という意味でもあるが、TDKデザインコア自体がTDKに自由にさせてもらっていた、という面もある。

たとえばどの媒体に何の広告をどのように打つか、という自由度もけっこうあったようだ。

「『媒体計画』というのがあったんです。80年代に人気のあったFM誌でいえば、『FMファン』はハード（機器寄り）、『FMレコパル』はヤング、中間的立ち位置なのが『週刊FM』といった具合でした。それぞれの本の

キャラクターに合わせて広告も変えていきます」

印象深い広告としては『スイング・ジャーナル』の一連の広告がある。「JAZZ365DAYS」と名付けられ1974年にスタートした連作の広告で、毎月その月にあったジャズにまつわる出来事でエッセイを書いていったのだ。例えば1回目は8月発売号だったため「1920年8月29日チャーリー・パーカー生まれる」として、チャーリー・パーカーにまつわるエピソードを披露。2回目は「1956年9月14日セシル・テイラー初レコーディング」といった具合。

「広告の役目は読者にそのページで



TDKカセットテープがフルモデルチェンジ。パッケージだけでなく、SDの技術を生かし全機種サウンドアップ。すべてプラスチックケース入り。しかも安くなりました。音質のタイプや特性を明確にする新表示採用。グレードアップの楽しみが増す音の集大成です。

タイプ	特徴	タイプ別長	録音特性				備考
			CR	CM	CM	CR	
D	標準	90分	●	●	●	●	標準のD-C60に比べて、低雑音・高出力・高ダイナミックレンジを実現。エアチェックに最適なサウンドを実現。
	★LOW NOISE	90分	●	●	●	●	
SD	標準	90分	●	●	●	●	低雑音・高出力・高ダイナミックレンジを実現。エアチェックに最適なサウンドを実現。
	★LOW NOISE	90分	●	●	●	●	
SUPER DYNAMIC	標準	90分	●	●	●	●	低雑音・高出力・高ダイナミックレンジを実現。エアチェックに最適なサウンドを実現。
	★HIGH OUTPUT	90分	●	●	●	●	
KR	標準	90分	●	●	●	●	二酸化クロムが技術の集大成の結晶。エアチェックに最適なサウンドを実現。
	★HIGH OUTPUT	90分	●	●	●	●	

※上記特性は従来のTDKカセットテープと比較した場合の比較値です。各タイプの特性詳細はA・L・C・J・A・M・I・B・C・D・E・F・G・H・I・K・L・M・N・O・P・Q・R・S・T・U・V・W・X・Y・Z・AA・AB・AC・AD・AE・AF・AG・AH・AI・AJ・AK・AL・AM・AN・AO・AP・AQ・AR・AS・AT・AU・AV・AW・AX・AY・AZ・BA・BB・BC・BD・BE・BF・BG・BH・BI・BJ・BK・BL・BM・BN・BO・BP・BQ・BR・BS・BT・BU・BV・BW・BX・BY・BZ・CA・CB・CC・CD・CE・CF・CG・CH・CI・CJ・CK・CL・CM・CN・CO・CP・CQ・CR・CS・CT・CU・CV・CW・CX・CY・CZ・DA・DB・DC・DD・DE・DF・DG・DH・DI・DJ・DK・DL・DM・DN・DO・DP・DQ・DR・DS・DT・DU・DV・DW・DX・DY・DZ・EA・EB・EC・ED・EE・EF・EG・EH・EI・EJ・EK・EL・EM・EN・EO・EP・EQ・ER・ES・ET・EU・EV・EW・EX・EY・EZ・FA・FB・FC・FD・FE・FF・FG・FH・FI・FJ・FK・FL・FM・FN・FO・FP・FQ・FR・FS・FT・FU・FV・FW・FX・FY・FZ・GA・GB・GC・GD・GE・GF・GG・GH・GI・GJ・GK・GL・GM・GN・GO・GP・GQ・GR・GS・GT・GU・GV・GW・GX・GY・GZ・HA・HB・HC・HD・HE・HF・HG・HH・HI・HJ・HK・HL・HM・HN・HO・HP・HQ・HR・HS・HT・HU・HV・HW・HX・HY・HZ・IA・IB・IC・ID・IE・IF・IG・IH・II・IJ・IK・IL・IM・IN・IO・IP・IQ・IR・IS・IT・IU・IV・IW・IX・IY・IZ・JA・JB・JC・JD・JE・JF・JG・JH・JI・JJ・JK・JL・JM・JN・JO・JP・JQ・JR・JS・JT・JU・JV・JW・JX・JY・JZ・KA・KB・KC・KD・KE・KF・KG・KH・KI・KJ・KK・KL・KM・KN・KO・KP・KQ・KR・KS・KT・KU・KV・KW・KX・KY・KZ・LA・LB・LC・LD・LE・LF・LG・LH・LI・LJ・LK・LL・LM・LN・LO・LP・LQ・LR・LS・LT・LU・LV・LW・LX・LY・LZ・MA・MB・MC・MD・ME・MF・MG・MH・MI・MJ・MK・ML・MM・MN・MO・MP・MQ・MR・MS・MT・MU・MV・MW・MX・MY・MZ・NA・NB・NC・ND・NE・NF・NG・NH・NI・NJ・NK・NL・NM・NN・NO・NP・NQ・NR・NS・NT・NU・NV・NW・NX・NY・NZ・OA・OB・OC・OD・OE・OF・OG・OH・OI・OJ・OK・OL・OM・ON・OO・OP・OQ・OR・OS・OT・OU・OV・OW・OX・OY・OZ・PA・PB・PC・PD・PE・PF・PG・PH・PI・PJ・PK・PL・PM・PN・PO・PP・PQ・PR・PS・PT・PU・PV・PW・PX・PY・PZ・QA・QB・QC・QD・QE・QF・QG・QH・QI・QJ・QK・QL・QM・QN・QO・QP・QQ・QR・QS・QT・QU・QV・QW・QX・QY・QZ・RA・RB・RC・RD・RE・RF・RG・RH・RI・RJ・RK・RL・RM・RN・RO・RP・RQ・RR・RS・RT・RU・RV・RW・RX・RY・RZ・SA・SB・SC・SD・SE・SF・SG・SH・SI・SJ・SK・SL・SM・SN・SO・SP・SQ・SR・SS・ST・SU・SV・SW・SX・SY・SZ・TA・TB・TC・TD・TE・TF・TG・TH・TI・TJ・TK・TL・TM・TN・TO・TP・TQ・TR・TS・TT・TU・TV・TW・TX・TY・TZ・UA・UB・UC・UD・UE・UF・UG・UH・UI・UJ・UK・UL・UM・UN・UO・UP・UQ・UR・US・UT・UU・UV・UW・UX・UY・UZ・VA・VB・VC・VD・VE・VF・VG・VH・VI・VJ・VK・VL・VM・VN・VO・VP・VQ・VR・VS・VT・VU・VV・VW・VX・VY・VZ・WA・WB・WC・WD・WE・WF・WG・WH・WI・WJ・WK・WL・WM・WN・WO・WP・WQ・WR・WS・WT・WU・WV・WW・WX・WY・WZ・XA・XB・XC・XD・XE・XF・XG・XH・XI・XJ・XK・XL・XM・XN・XO・XP・XQ・XR・XS・XT・XU・XV・XW・XX・XY・XZ・YA・YB・YC・YD・YE・YF・YG・YH・YI・YJ・YK・YL・YM・YN・YO・YP・YQ・YR・YS・YT・YU・YV・YW・YX・YY・YZ・ZA・ZB・ZC・ZD・ZE・ZF・ZG・ZH・ZI・ZJ・ZK・ZL・ZM・ZN・ZO・ZP・ZQ・ZR・ZS・ZT・ZU・ZV・ZW・ZX・ZY・ZZ



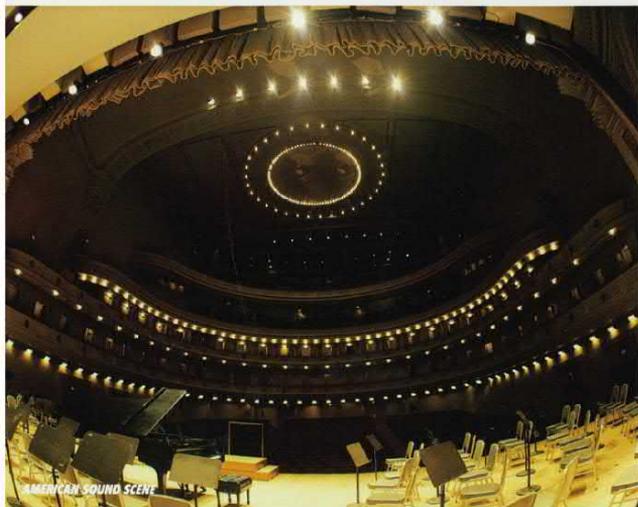
●お札店は、デパート、有名電気店、オーディオ店
 ●別製品に同じでもお問合は、東京電気化学工業株式会社総経銷部（東京部）〒100東京都千代田区千代田2-14-6 電話03-2646-4111 K代表

バレエ、オペラ、シンフォニー…。N.Y. の音楽の中心は、ウェストサイドにある。



MUSIC REFERENCE AD
 TDK AD90
 TDK
 AMNEY-60-AD90V-150-AD90V-150-AD90V-150-AD90V-150

演奏家は、ここに特別な感情を抱くという。N.Y.カーネギーホール



MUSIC REFERENCE AD
 TDK AD90
 TDK
 AMNEY-60-AD90V-150-AD90V-150-AD90V-150-AD90V-150



MUSIC REFERENCE AD
 TDK AD90
 TDK
 AMNEY-60-AD90V-150-AD90V-150-AD90V-150-AD90V-150

「AMERICAN SOUND SCENE (アメリカン・サウンド・シーン)」と名付けられた一連の広告。写真家の木之下晃氏と和泉氏、内野氏で3年にわたって全米を周り、広告用写真を撮影していった。なかには飛び込みに近い撮影もあったという。

手を止めてもらうこと。スイング・ジャーナルということで読者はみんなジャズ好き。ジャズ好きが読み込んでくれるようなコンテンツを作ろうと思ったのです。ただ制作はけっこう大変だったと内野氏は振り返る。たしかに広告というよりもはや記事。しかも挿絵の準備もデザインも自前だ。もちろんテーマも毎回変えなければい

けないし、ジャズ好きを納得させるクオリティ、深みも必要だ。だが内野氏と和泉氏は毎回読者を納得させる広告誌面を作り上げた。このシリーズは好評だったようで、同様のシリーズを含めると3年以上続いた。こうしたジャズ好きに刺さる広告を繰り返したことで、「ジャズを録るならTDK」というイメージはユーザー

に浸透していった。またジャズだけでなくクラシックの分野でもFMでの生収録番組『TDK オリジナルコンサート』を長くリリース。オンサードレクラシック・ファンの間でもカセットテープはTDKとの認識が定着。こうした音楽ファンへダイレクトにアプローチすることで「実力派のカセットテープ」という評価は確固た

るものになったのだ。100万円を1万円と考える 前出の畠山氏はやがて商品企画から広報へと異動になった。その畠山氏の後を受けて商品企画を担当したのが吉野宏氏だったが、吉野氏はもともと宣伝を担当していた人物だった。「1972年頃、カセットテープの

MUSIC REFERENCE AD

安定したテープ走行は、ミュージックリファレンスの条件である。

●ミュージックリファレンス、ニューADとSPメカニズム、ミュージックリファレンスの名を冠して登場したニューAD。あらゆる音楽ソースに、あはて自然に、応答し、見事にリファレンスの叫び、FMサウンドを聴かせます。この音を生み出すには、従来から超高精度に作りこまれた精密な可変特性、全帯域にわたるMOL特性、低歪率のすぐれた電磁特性、しかも、カセットテープの場合、電磁特性だけで音を出すことはできません。テープ走行に関係する多くの機構をテープカセット本体の内部に持つカセットテープにおいて、カセットメカニズムの精度、信頼性、耐久性がテープ自体の特性に匹敵し、大切なことで、安定したテープ走行性、正確なヘッドタッチによって、ニューADのテープ走行性、正確なヘッドタッチによって、ニューADの電磁特性をフルに発揮させる。このよき考えから、TDKではニューADに、従来よりも1グレード上のSPメカニズムを採用しています。

●メカニズムMAE同等の精度を持つSPメカニズムだから、SPメカニズムは、プラスチックテープにおける超高精度、剛性を徹底的に追求したものの、A面・B面テープの寸法、チユク、クボ、インドは、マイクロ単位で、1.117個単位という超精密設計。内部メカニズムには、TDK独自の技術が投入されています。テープを上下からサンドイッチしているDBシートも、その一つ。これは特殊な材質のシートに凹凸を設けたもので、凹凸のクッション効果でテープをツツに、また確実に保持。その凹凸の位置と高さは、最も安定したテープ走行性が得られるよう、コンピュータ解析により設定されています。その他、フィルムスプリング、ダブルクランプなど、正しいテープ走行、ヘッドタッチを得るためのアイデアが随所に生かされています。ジャズにおけるトランペットの鋭い響れ、クラシックの華やかな響き、ボーカルの豊かな表情……音楽を忠実に再現するニューADの音は、SPメカニズムによって支えられているのです。



新発売



●SPメカニズム採用AD / Normalポジション
AD16 ¥450・AD60 ¥530・AD90 ¥550・AD120 ¥1,200



スムーズなテープ走行がシャープな音像を結ぶ。だから、ノンバーニング・ガイドローラ。

メカニズムの精度が高い。ACOUSTIC CONCEPT AD-X

TDK

パワフルなプレイの再現性が、実にシャープに響き、余韻の何となくな。今まで、これほど情報量が多し、繊細に音楽を操る出すNormalテープがあつたばかりか。アコースティックコンセプトAD-X。この高精度でサウンドを支えているのがTDK独自のSPメカニズム。TDKは、1966年、国産初のカセットテープを発売した当時より、テープ特性の向上と最も正確なヘッドタッチ、信頼特性を追求。より高精度なカセットメカニズムの開発を進めてきた。SPメカニズムは、マイクロ単位での超精密なカセットメカニズム。そのすぐれた走行精度、信頼特性によって、音色、音楽定位、奥行き感など、原音の持つ情報も、徹底的に、高精度に再現します。

●TDK独自の超精密設計により、A面・B面テープの寸法、チユク、クボ、インドは、マイクロ単位で、1.117個単位という超精密設計。内部メカニズムには、TDK独自の技術が投入されています。テープを上下からサンドイッチしているDBシートも、その一つ。これは特殊な材質のシートに凹凸を設けたもので、凹凸のクッション効果でテープをツツに、また確実に保持。その凹凸の位置と高さは、最も安定したテープ走行性が得られるよう、コンピュータ解析により設定されています。その他、フィルムスプリング、ダブルクランプなど、正しいテープ走行、ヘッドタッチを得るためのアイデアが随所に生かされています。ジャズにおけるトランペットの鋭い響れ、クラシックの華やかな響き、ボーカルの豊かな表情……音楽を忠実に再現するニューADの音は、SPメカニズムによって支えられているのです。

●SPメカニズム採用AD / Normalポジション
AD16 ¥450・AD60 ¥530・AD90 ¥550・AD120 ¥1,200

正確なテープ走行を得るために、ハブの真円度も高めた、高精度ハブとダブルクランプ

ACOUSTIC CONCEPT AD-X

TDK

パワフルなプレイの再現性が、実にシャープに響き、余韻の何となくな。今まで、これほど情報量が多し、繊細に音楽を操る出すNormalテープがあつたばかりか。アコースティックコンセプトAD-X。この高精度でサウンドを支えているのがTDK独自のSPメカニズム。TDKは、1966年、国産初のカセットテープを発売した当時より、テープ特性の向上と最も正確なヘッドタッチ、信頼特性を追求。より高精度なカセットメカニズムの開発を進めてきた。SPメカニズムは、マイクロ単位での超精密なカセットメカニズム。そのすぐれた走行精度、信頼特性によって、音色、音楽定位、奥行き感など、原音の持つ情報も、徹底的に、高精度に再現します。

●TDK独自の超精密設計により、A面・B面テープの寸法、チユク、クボ、インドは、マイクロ単位で、1.117個単位という超精密設計。内部メカニズムには、TDK独自の技術が投入されています。テープを上下からサンドイッチしているDBシートも、その一つ。これは特殊な材質のシートに凹凸を設けたもので、凹凸のクッション効果でテープをツツに、また確実に保持。その凹凸の位置と高さは、最も安定したテープ走行性が得られるよう、コンピュータ解析により設定されています。その他、フィルムスプリング、ダブルクランプなど、正しいテープ走行、ヘッドタッチを得るためのアイデアが随所に生かされています。ジャズにおけるトランペットの鋭い響れ、クラシックの華やかな響き、ボーカルの豊かな表情……音楽を忠実に再現するニューADの音は、SPメカニズムによって支えられているのです。

●SPメカニズム採用AD / Normalポジション
AD16 ¥450・AD60 ¥530・AD90 ¥550・AD120 ¥1,200

AD (1981年)、AD-X (1982年)の広告。この時代、TDKは技術力を前面に出し、ビニー本にまで拘った設計であることをアピール。雰囲気でもカセットを選ばない、音楽ファン、オーディオマニアたちを狙い撃ち。

もちろんステイビー・ワンダーとなると、アメリカのアーティストのなかでも別格。ただギャラが高いだけでなく、そもそも受けてくれない可能性も高かった。だがダメ元でステイビー・ワンダーに出演依頼をしてみると、意外な答えが返ってきた。「プロジェクトXなどでも紹介されて、有名な話ですけど『TDKが私を選ぶ前に私がTDKを選んだ』と。ステイビーはTDKのユーザーだったので。おかげで出演交渉もうまくまとまって、あのコマーシャルが実現したのです」。このときのコピーは「いい音を組み立

てると音楽になる」だった。さらに1982年からは、TDKヨーロッパは、ローリング・ストーンズのツアーサポートを行うことになる。その後、日本もバブルに向けてどんどん景気が良くなり、またカセットテープもウォークマンの大ヒットなど重なり益々需要が拡大した。やがてライバル各社も海外のアーティストをCMに起用する「外タレブーム」が到来するのだが、このステイビー・ワンダーの起用は、カセットテープ業界ではもちろん、他の

Musictracer AD

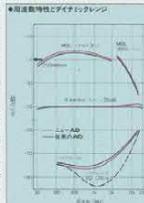
音楽明快

ミュージックトレーサー、ニューAD。サウンドの透明感が違う。音楽感が、さらにいい。ミュージックリファレンスADの進化です。音楽を構成する音の粒子にリアルに応答。あらゆる音楽を、ありのままに、明快地描き出す。だから、ミュージックトレーサー。いい音楽を、たくさん聴く人のために。いい音で、いつも聴く人のために。TDKから生まれかわったニューAD。いい音だから、音楽がとっても気持ちいい。のです。



新発売

●新開発磁性材ファインリニアフェリックスを採用。アビリンIX採用から生まれた新磁性材ファインリニアフェリックスを高密度実装。諸特性が一段とアップ。テープ自体の記録密度も高めています。
●音の精細密度がさらに濃くなった。全帯域の出力に関係する最大残留磁束密度は、従来のADより10mT(100ガウス)も高い(66mT(660ガウス)。音の情報収容能力が格段に向上しています。
●ワイドレンジで明快なサウンド。MOL(実用最大出力レベル)特性は、従来のADに比べ全帯域で18dBアップ。ハイパスノイズは-59.0dBと、Normalポジションの極限ともいえる低ノイズ特性を実現。感度は全帯域にわたって1.5dB向上し、さらに超高域までレンジを伸ばしています。このため、再生音は、一段と透明感、密度感を増し、ワイドレンジで明快なサウンドパフォーマンスを実現します。
●超高精度SP-メカを採用。ハーフの耐用性が55%も向上。初駆特性の維持、音質の向上に大きな役割を果たしています。
●ハーフラベルは6枚。ハーフラベルは、ハーフに貼り直し、この他に4枚添付して合計6枚、再録音時に便利です。



NEWAD Normalポジション SP-Kメカシステム
AD48V450 AD54V500 AD60V550 AD66V650 AD120V1200



1984年の広告。好評だったADのハードなイメージは引き継ぎつつ、白いラベルで新しさもアピール。さらにこのころ流行した透明ハーフのAD-Sもラインナップした。

業界のCMと比較しても早かった。

TDKは日本とアメリカでステイビー・ワンダーの後もヨーロッパでポール・マッカートニー、フィル・コリンズ、ジャネット・ジャクソンなど実力派の海外アーティストを次々とCMに起用。こうした実力派の起用はとくに海外では好意的に捉えられ、欧州では最大のライバルであるBASFのお膝元ドイツでも「国営機関のテストで1位にもなりました」と躍進を果たしたという。

「当時は海外の営業活動も精力的で、耐久性の高さから中東では『ラグダで運んでも大丈夫』などと言われたものですが、回教徒に改宗したサムライ営業マンもいました」(畠山氏)。さらにソ連を始めとした共産圏の市場にもTDKは浸透していったのもこの頃だった。

TDKが世界の頂点に！

カセットテープのピークは1990年前後と言われているが、このピークに向け各社熾烈な販売競争が繰り広げられた。

派手な商品展開とウォークマンとの組み合わせで若者の心を掴んでいたソニー、オープンリール時代から続く定番のUDを軸に展開するマクセルは



若者に人気のワム！を起用、斉藤由貴をイメージキャラクターに起用し新ブランド『アクシア』を若年層に浸透させた富士フィルム。日本国内の強力なライバルメーカーに対し、TDKはあくまで技術力と音楽性を強調し、正統派の戦いを繰り広げた。

広告展開もADのフルモデルチェンジに合わせて1986年にサザンオールスターズをCMに起用したが、基本的にはカセットテープそのものの魅力を伝えるものが続いた。が、他社のイメージに頼ったり、コミカルさを売りにするCMに比べるとむしろ際立っていた印象がある。とくに音楽ファン、

MIA-R^を 超えろ!!

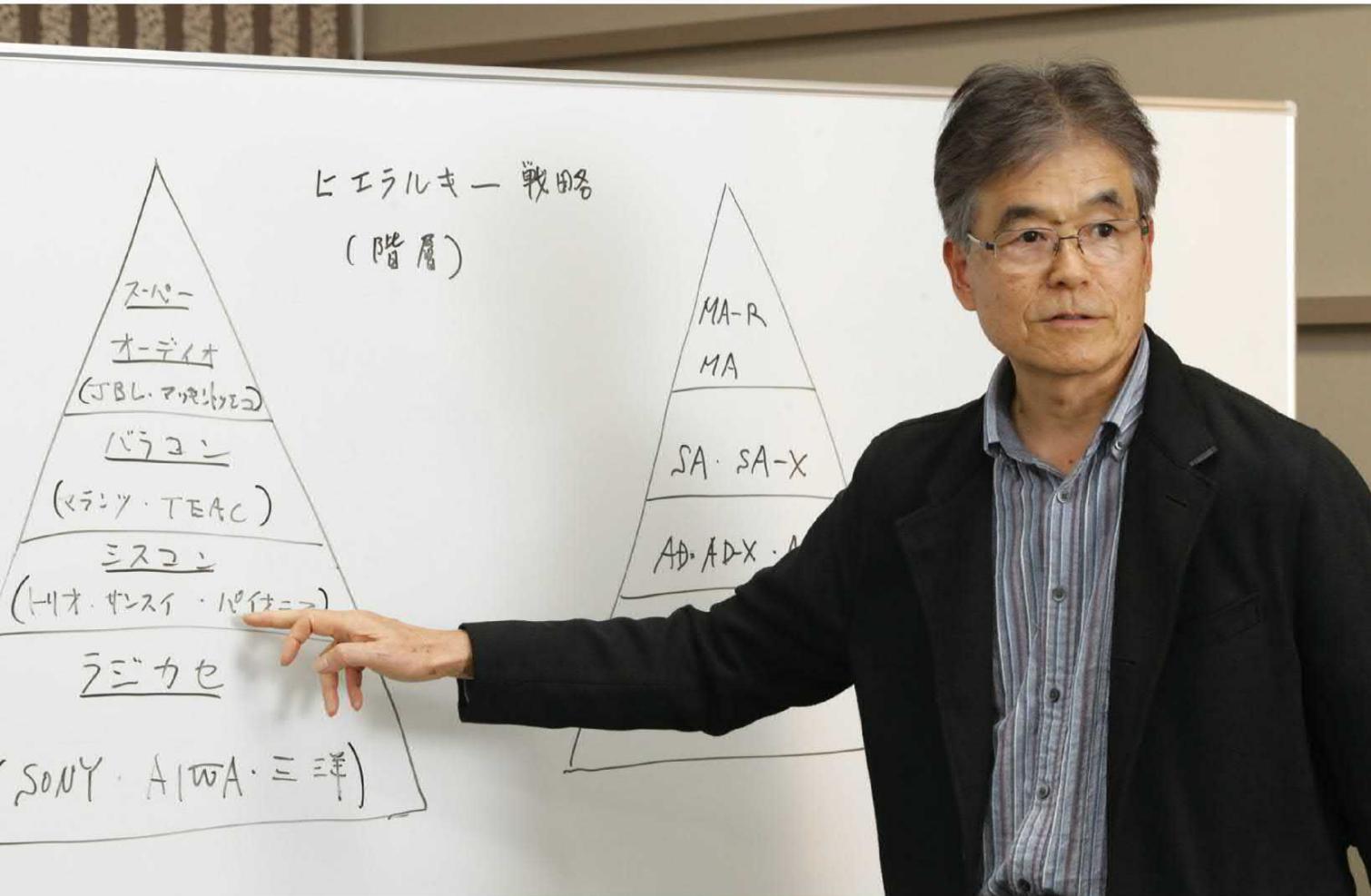
アナログカセット時代の総決算

写真・横澤靖宏/山田芳朗
文・澤村 信
取材協力・TDK歴史みらい館



意外なことに国産のメタルカセット第一号はTDKのMA-Rだった。つまりメタルは誕生と同時に頂点を極めていたと言って過言ではない。しかし、90年代に入り、カセットテープ、特に高性能カセットはデジタル時代の到来とともに、その役目を終えようとしていた。そんな時代に誕生した超弩級メタルカセットがMA-XG Fermoだった。





吉野 宏

1975年入社。磁気テープ事業部の宣伝を担当。1986年から畠山氏の後を受けて磁気テープ事業部商品企画に携わる。カセットテープの全盛期を経て、TDK最後の高級カセットとなるMA-XG Fermoの企画を立ち上げた。



TDKが海外アーティストをコマースに起用し始めると、ライバル各社も追随するように宣伝に力を入れ始める。その走りとなったステイビー・ワンダーのCM時代に吉野氏が宣伝を担当していた。

営業、宣伝で学んだこと

吉野宏氏は1975年にTDKに入社。同期で総合職として入社したのは28名いたが、そのうち磁気テープに配属されたのは2名だけだった。電子部品の営業に行った人数は多かったというから、当時のTDKではまだ磁気テープ営業の地位は低かったことがわかる。

「営業では販売代理店と一緒に仕事をしたので、代理店にしてみればメインはパイオニアやトリオといった大手のオーディオメーカー。TDKはコイズミやコロナといったままで言う『ジェネリック家電』と同じ扱いでした。代理店のトラックに乗って一緒に販売店を回ったりしましたね」。約3年半営業職に携わり、その後宣伝に異動する。

宣伝では、TV・FM・雑誌を使った宣伝・広告の企画やオーディオ評論家対策、媒体への製品紹介などの業務を約5年間行い、1986年に商品企画に異動となった。だがそれまで経験した営業、宣伝の業務がこの商品企画に大きく活かされることになる。「このころまでのカセットテープは高MO、低ノイズといったスペックと音質といった、本来カセットテープに求め

MA-Rを**超えろ!!**



1979 TDK MA-R



1985 TDK MA-XG

られる性能こそが商品の価値・評価に直結していました。が徐々に業界が変化していることはひしひしと感じていました」と吉野氏。それまで開発よりも、よりユーザーに近いポジションで動いていたため、市場トレンドの変化を敏感に感じ取っていたのだ。それはカセットに求められるものが「高性能化」から「ファッショニ化」への変化だった。

ちょうどこの頃、製造技術が進歩して、ハーフの2色成形が可能になった。「それまでハーフは着色された本体と窓は別パーツでした。一体とするならハーフは透明にするしかない。ところがこのころ樹脂の成形技術が進歩して、ハーフを2色の樹脂で一体成型することが可能になったのです」。それが1986年に発売されたAD、AR、SFに採用されたH型ハーフだった。

ポジションレグレードではない

ひと目で商品を知ることができる、カラフルなパッケージと、明らかに他のカセットとは違うハーフデザインで差別化。もちろんこれまで培ったカセットテープとしての性能は確保しつつ…。ファッショナブルで高性能なこの新シリーズは大ヒットを果たす。だが、そのヒットの裏には、吉野氏のマーケティング思想が込められていた。「ポジションは単なるバイアス値の違いだと考えたのです」

かつて、ノーマルポジションのテープが存在しなかった時代。より高性能化するためにハイポジションが開発され、さらにメタルテープが作られた。だが、メタルの誕生から7年が経過し、また磁性体の研究も進んだため、メタルテープの低価格化、ノーマル、ハイポジの高性能化も進んでいた。すでにポジション毎の性能はもちろん価格差は、もはやメーカーが作務的につけたものでしなくなっていたのだ。

そこで吉野氏は、新しいAR-X（ノーマル）、SA（ハイポジ）さらには2年後に登場するMA（メタル）をほとんど同じ価格で発売したので（AR-X46を570円、SA46を580円、MA46を600円）。こうすることでユーザーは価格やポジションではなく、純粋に音の好みでカセットを選べるようにしたのだ。

「こうした考え方はまだ珍しかったのですが、オーディオ誌のなかには賛同してくれるところもあって、ポジションではなく音で選ばう、という企画を組んでくれるところもありました

プレミアム・メタルテープの競演



1993 SONY Super Metal Master



1989 maxell Metal Vertex



1991 DENON MG-X



1989 That's SUONO

1987年に誕生したソニーのメタル・マスターを皮切りに、まるでMA-Rに対抗するように超弩級カセットが各社から発売された。特徴は素材から吟味されたハーフ。磁性体の開発先行で進められることが多かったが、やはり(46分で)1本1000円オーバーのクラスともな

ると、ハーフの性能が大きく影響してくる。多いのは重量樹脂を使ったハーフで、That's SUONOのようにデザインに凝ったものも登場。ただこうした動きも1993年のスーパー・メタル・マスターを最後に沈静化。1999年には国産メタルテープの生産も終わってしまう。



1990 TDK MA-XG Fermo

1990年前後、カセットテープの生産本数は最高を記録したが、コモディティ化を迎えつつあり、すでに性能を求められる時代は終わりつつあった。各社の企画・開発者たちは、そんな時代の流れを敏感に感じ取っていたようだ。そのため有終の美を飾るべく、各社がほぼ時期を同じくして、採算度外視の超高級カセットを次々と誕生させていった。



46分…1980円、60分…2200円、90分…2530円



「カセット=宝石箱に知恵と技術と 夢を詰め込みました」

よ」と吉野氏は振り返る。
じつはそれまで、徐々にハイボジ、
メタルの販売が落ちていたのだが、こ
うした考えが浸透するにつれ、息を吹
き返すことができたのだ、という。

やがてカセットは終わる

市場の変化を敏感にとらえてきた吉

野氏だが、認めたくない変化も否応無
しに感じつつあった。それはカセット
テープ文化が終焉に向かいつつある、
ということ。

1982年に実用化されたCD。こ
れまでディスクメディアをカセットに
録音するには、ちゃんとしたコンポで
高性能なテープを使うことが必須だっ

た。だがCDが高音質を身近にし、ま
たカセットテープの性能も底上げが進
んだため、CDラジカセでもそこそこ
良い音でディスクメディアをダビング
することができるようになってしまっ
たのだ。

それまで音の好みやデザインでカ
セットを選んできていたユーザーは、
ダビング元のCDとびつたりの分数の
カセットであれば、どのメーカーの
カセットでも良い、というようになっ
てしまった。こうなるとカセットテー
プは単に価格で選ばれるコモディティ
化が進み、商材としての魅力はなくな
っていったのだ。

さらにCDそのものに記録する研究
も進んでいて、実用化も時間の問題。
そうなればカセットは完全に存在意義
を失ってしまうのだ。

皮肉なことに、吉野氏たちメーカー
の社員たちがカセットテープの終わり
を感じていた1989年頃、カセット
テープの生産本数は過去最高を記録し
つつあった。誰からともなく「まだ余
力のあるうちに最後に最高のテープを
作りたい」と考えるようになっていた、
という。

同時多発的に誕生した最高のテープ

1979年、オープンリールテープ

の性能を凌駕するために実用化された
メタルテープ。世界初のメタルテー
プは、磁性体を開発したスコッチのメタ
ルテープだが、国産初のメタルテー
プはTDKのMA-Rだった(MAと同時
発売)。MA-Rはご存知のとおり
アルミダイキャストのフレームを透明
のアクリル板で挟む独特の構造。走行
系をデッキに依存するオープンリール
と違い、走行系の一部をハーフが担う
カセットではハーフの性能が音を大き
く左右する。そこで最高のテープを最
高のハーフに収めたのがMA-Rだっ
た。

MA-Rは長らくカセットテープの
頂点に君臨していたが、1985年に
MA-XGにスイッチする。

ハーフの全周をアルミダイキャスト
にしていたMA-Rに対し、テープガ
イド部分をプラスチックパーツに置き
換えられたMA-XGは、一見「M
A-Rのコストダウンか」とも思われ
がちだが、吉野氏によれば「精度の求
められるテープガイド部分だけを、成
形技術が進んだ樹脂のパーツに置き換
えたのです」というから、MA-Rの
進化版という評価こそMA-XGに与
えられるべきものだった。

確かに硬化温度が高いアルミダイ
キャストは精密さが求められるパーツ

Finer magnetic particles

These particles are composed of two different metal alloys. For well-balanced playback performance, these magnetic particles have been carefully selected to meet the requirements of the tape's upper and lower magnetic layers. To ensure long shelf life, a special surface treatment shields each particle against contact with atmospheric oxygen to prevent oxidation.

Structure of the magnetic tape

Upper magnetic layer (Ferro-magnetic oxide)

Lower magnetic layer (Ferro-magnetic oxide)

Non-woven fabric

Structure of the magnetic tape

The MA-XG is TDK's first metal cassette to feature a dual magnetic layer. The upper layer has been engineered for clear and noise-free reproduction of high frequencies, while the lower layer is designed for mid and low frequency characteristics and low MAU. Accurate coating of the particles in the upper layer eliminates a frequency response dip in the lower frequency range, which is inherent in many two-layer tapes. Well-associated response throughout the frequency spectrum is the result. The MA-XG uses an advanced frequency response test to meticulously match the two magnetic layers.

Magnetic energy

The higher a tape's magnetic energy, the more information can be stored. More information, in turn, means more faithful reproduction. That's why the MA-XG employs a combination of ultra-fine metal particles in which all four of the following magnetic elements are magnified - for a magnetic power factor twice that of a super layer cassette. The choice of material is a major contributor to the MA-XG's superior handling of transient noise in CD recordings.

Modulation noise

Modulation noise consists of signal components other than the audio signal and that originate during recording or playback. The MA-XG's superior handling of transient noise in CD recordings, the precision of the cassette mechanism and the resonance characteristics of the shell are major factors in this context. Thanks to the application of the latest tape technologies, an extremely rigorous choice of materials, a sophisticated shell design and precision coating of all mechanical components, the MA-XG features dramatically reduced modulation noise compared to the predecessor model.

Dynamic range

With high noise down to -58 dB and MAU up to +75 dB (310 Hz) and 0.5 dB (100 kHz), the new MA-XG achieves a dynamic range of 86.5 dB.

MAU (High-frequency dynamic range) of 86.5 dB. It is perfectly suited to the most demanding DCC recordings - from a few recordings to hundreds of thousands.

* U dB = 20 log (mV/m)

Surface roughness

The MA-XG tape features a mirror-smooth surface for optimum tape-head contact. As a result, even the most delicate audio signals can be recorded with stunning accuracy.

Tape guide block

The tape guide block is cast in a precision mold with six injection points. This procedure ensures high material purity and extremely fine dimensional accuracy - two major factors for reliable accuracy in the long term and optimum tape travel around the tape heads.

Reduced contact area between tape guide and head

Repulsive tape guides in the tape guide block ensure perfect tape-head contact during recording and playback. To avoid unnecessary friction and the risk of wear and static, the contact area between tape and guide has to be kept to a minimum without causing excessive pressure on the tape.

Cassette window

Usually considered one of the less important parts of a cassette shell, the window of the MA-XG received the same attention as the other components. After all, the tape window has a bearing on the shell's overall resonance characteristics. This is why a domed shape with a high degree of rigidity was specified for the tape window of the MA-XG.

Slip sheets

A carefully calculated embossing pattern for the slip sheets ensures a constant force and uniform tape winding irrespective of the amount of tape on the hubs. The slotted deformation resulting from pressure in the slotted edges of the tape are a thoroughly considered

MA-XG/1990. THE STATE OF THE ART.

Cassette shell design

The MA-XG's shell consists of three flame elements and two face plates held together by 10 screws applied both vertically and sideways for multidirectional stability. Using two materials of different rigidity, the face plates exhibit excellent resonance damping. To add weight to the tape window section, an area highly prone to vibration, metal plates have been incorporated. Any vibration which could be propagated to the tape to cause modulation noise will thus be attenuated or suppressed completely.

Erasure prevention plugs

Recording is disabled by inserting the plug (1), (2) and when the cassette is to be erased or re-recorded, the plug is inserted in its original position (3). This can be repeated as often as necessary, allowing the need for erasable tapes to cover the holes left by erasure prevention tabs, instead from conventional cassettes.

Wide frequency characteristics

MA-XG/1990

Parameter	Value
Frequency response (MAU)	86.5 dB
Dynamic range	86.5 dB
MAU (High-frequency dynamic range)	86.5 dB
MAU (Low-frequency dynamic range)	86.5 dB
MAU (Mid-frequency dynamic range)	86.5 dB
MAU (Full-frequency dynamic range)	86.5 dB
MAU (Total dynamic range)	86.5 dB
MAU (Overall dynamic range)	86.5 dB
MAU (Average dynamic range)	86.5 dB
MAU (Maximum dynamic range)	86.5 dB
MAU (Minimum dynamic range)	86.5 dB
MAU (Standard dynamic range)	86.5 dB
MAU (Typical dynamic range)	86.5 dB
MAU (Nominal dynamic range)	86.5 dB
MAU (Reference dynamic range)	86.5 dB
MAU (Default dynamic range)	86.5 dB
MAU (Factory dynamic range)	86.5 dB
MAU (Production dynamic range)	86.5 dB
MAU (Quality dynamic range)	86.5 dB
MAU (Performance dynamic range)	86.5 dB
MAU (Reliability dynamic range)	86.5 dB
MAU (Durability dynamic range)	86.5 dB
MAU (Stability dynamic range)	86.5 dB
MAU (Consistency dynamic range)	86.5 dB
MAU (Accuracy dynamic range)	86.5 dB
MAU (Precision dynamic range)	86.5 dB
MAU (Resolution dynamic range)	86.5 dB
MAU (Sensitivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Selectivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Specificity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Exclusivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Inclusivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Comprehensiveness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Exhaustiveness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Thoroughness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Meticulousness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Attention to detail dynamic range)	86.5 dB
MAU (Commitment dynamic range)	86.5 dB
MAU (Dedication dynamic range)	86.5 dB
MAU (Devotion dynamic range)	86.5 dB
MAU (Piety dynamic range)	86.5 dB
MAU (Fidelity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Loyalty dynamic range)	86.5 dB
MAU (Fidelity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Reliability dynamic range)	86.5 dB
MAU (Durability dynamic range)	86.5 dB
MAU (Stability dynamic range)	86.5 dB
MAU (Consistency dynamic range)	86.5 dB
MAU (Accuracy dynamic range)	86.5 dB
MAU (Precision dynamic range)	86.5 dB
MAU (Resolution dynamic range)	86.5 dB
MAU (Sensitivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Selectivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Specificity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Exclusivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Inclusivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Comprehensiveness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Exhaustiveness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Thoroughness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Meticulousness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Attention to detail dynamic range)	86.5 dB
MAU (Commitment dynamic range)	86.5 dB
MAU (Dedication dynamic range)	86.5 dB
MAU (Devotion dynamic range)	86.5 dB
MAU (Piety dynamic range)	86.5 dB
MAU (Fidelity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Loyalty dynamic range)	86.5 dB
MAU (Fidelity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Reliability dynamic range)	86.5 dB
MAU (Durability dynamic range)	86.5 dB
MAU (Stability dynamic range)	86.5 dB
MAU (Consistency dynamic range)	86.5 dB
MAU (Accuracy dynamic range)	86.5 dB
MAU (Precision dynamic range)	86.5 dB
MAU (Resolution dynamic range)	86.5 dB
MAU (Sensitivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Selectivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Specificity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Exclusivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Inclusivity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Comprehensiveness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Exhaustiveness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Thoroughness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Meticulousness dynamic range)	86.5 dB
MAU (Attention to detail dynamic range)	86.5 dB
MAU (Commitment dynamic range)	86.5 dB
MAU (Dedication dynamic range)	86.5 dB
MAU (Devotion dynamic range)	86.5 dB
MAU (Piety dynamic range)	86.5 dB
MAU (Fidelity dynamic range)	86.5 dB
MAU (Loyalty dynamic range)	86.5 dB

Now & better characteristics

Smooth and uniform tape travel is an indispensable prerequisite for immaculate playback. This is why the precision of the cassette mechanism's components cannot be overemphasized. The strict demands the MA-XG's superior voice & better characteristics pose a further challenge to our conventional cassette mechanism.

Guide rollers

Ensuring constant contact with the tape, the guide roller is another component that has no margin for imprecision. Any deviation from perfect geometry could impair tape travel or even cause tape vibration, thus affecting recording and playback. The MA-XG's superior voice & better characteristics are the result of a stringent quality control.

TDK!

MA-XG

MA-XG 90

THE GOLDEN RETAIL

THE HIGH-RECORD REFERENCE
Dual-tape layer
Etched dynamic range
Etched mechanism

TDK

MA-XG Fermoの海外版テクニカルインフォメーション。他に類を見ない5ピースのハーフ構造がよく分かる。ちなみに海外では『NEW MA-XG』として販売された。

営業は「はぐりななこもさくら」と「ア」といふ想いはあったのではないのでしょうか」と推測している。

これはデジタル・オーディオの時

には不向き。精度を追求するなら別の素材で、というのは理にかなっている。もしこれから最高のカセットを作るということになれば、このMA-XGのモデルチェンジ、というのが順当な流れになるだろう。

さてこの1989年前後、じつはTDKだけでなく他のメーカーからも高性能テープが誕生している。

1987年にはソニーがオールセラミックのハーフを採用したメタル・マスター（ハイポジションのUXマスターも同時に発売）を登場させている。1989年には太陽誘電（ザツ）が、ジウジアーロデザインのハーフを採用したSUONO、またマクセルはメタル・パーテックスを発売した。

とくにメタル・パーテックスは重量樹脂のハーフに制振のメタルプレートを組み合わせた構造。あまりの高性能さに対共産圏輸出規制（コム協定）品指定されたというのも性能を裏付けるエピソードとして語り継がれている。

こうした各社の動きを吉野氏は、「各社、最後に最高のテープを、という想いはあったのではないのでしょうか」と推測している。

代になる。そうなる遊び（開発の自由度）はなくなると思っていた、と吉野氏は言う。そして「最後に最高のテープを」という想いでニューMA-XGの開発がスタートした。

営業サイドからは「いくらになってもいいから、TDKとして最高のものを」というリクエストがあったという。もちろん吉野氏ら商品企画も同じ考えだった。

そのためにテープとメカニズムの両方で最高のものを求めることになった。

まずMA-XGまでは単層だったテープは2層構造とすることになった。テープに求められる性能は高MOL特性と低ノイズにつきる。まずMOL特性は大入力に強くかつ歪の少ない再生音のために必要な性能。急峻な立ち上がりを実現したデジタルソースに対応するために必要とされていた。また低ノイズも同じくノイズが皆無でピアニッシモに近いデジタルソースに対応するためだった。

TDKはMA-Rのために開発された磁性体『FINAVINX』をモデルチェンジの度に改良して採用してきたが、今回ニューMA-XGのために2種類のFINAVINXを新たに開発した。1つは高出力タイプ（高MOL特性）の磁性体、もうひとつは低ノ

イズタイプの磁性体。下層に高出力タイプ、上層に低ノイズタイプの2層塗布とすることで、求められる最高の性能を引き出すことに成功している。

さらに最新の高配向、高密度充填技術を用い、保磁力はMA-XG比で1kA/mアップの91kA/m。最大残留磁束密度は100ガウスアップの3400ガウスを実現した。

こうしてTDK初となる2層構造のメタルテープが誕生した。そしてこのテープを収めるハーフも、驚くべき構造の物が考えられていた。

共振を抑え込む5ピースのハーフ

テープ走行メカニズムの一部として、ハーフに求められる性能要件は、内部振動の排除につきる。つまりデッキの回転系などで発生した振動が、ハーフ内部のメカニズムを振動させることを防ぐ、ということ。MA-RやMA-XGではアルミダイキャストフレームという強固なハーフで振動を抑え込むという思想だったが、質量を増やすことに限界がある以上、その手法では完全に振動を抑え込むことは不可能。

そこでニューMA-XGでは重量ハーフで振動を抑え込むとともに、素材と構造で振動を吸収する、という手法を開発した。

ハーフのおおまかな構造は2枚のプレートを両サイドとトップサイド（検出孔側）からホルドする5ピース構造とした。さらにプレートは上層に軟質プラスチック、下層にガラス繊維強化プラスチックを採用した特殊2層成形とすることで、プレートそのものでも振動を吸収することができる。

これらのピースは、上下左右と前方から3種類、合計10本ものピースで剛結されている（通常のハーフは上下方向に5本のピースで固定される2ピース構造）。こうした構造により全方向の剛性を確保している。

さらにテープガイド部分を挟むようにプレートの内側には2枚の金属製ウ

エイトを配置するサウンドスタビライザー・ウエイトも採用した。そのテープガイドブロックもガイドとテープの接触面積をMA-XGの3分の2まで減らし、テープの微小振動を低減。変調ノイズを減らすことに成功している。

「カセットはフランス語で『宝石箱』という意味ですが、MA-XG Ferroはその中にTDKのカセットビジネスに携わった人の知恵と技術と夢の全てを詰め込んだ最高のカセットが出来たと自負しています。ただ、それ以上に一つの目標に向かって皆で仕事が出来たことが私の誇りです」と語った吉野氏の顔は満足そうに見えた。

